これまで農業移民で行つた人たちの子弟が成長して、ようやく政治・経済など各方面に活躍し始めているということを感じますね。

売れッ子画家の間部さん……★

―そうですか。そのほか何か特に……

沢田 特にむこうに行つて嬉しく感じたことがあります。こんど絵を貰つてきたんですがね。これは熊本県出身の移住者の子供として育たれた、間部学さんという三十六才の人が下さつたんです。

この方は独学で絵を勉強してブラジル大賞を受け、さらにフランスの展覧会でグランプリをもらい、アメリカの有名な雑誌である「タイム」に紹介されて、一躍売れッ子になつた方です。

ヨーロッパ方面でもひつぱりだこで、いまローマで個展を開いているそうです。

―では国際的な活躍ですね。

沢田 そうなんです。そんなふうに芸術的な面でも日系人の方々が活躍しているというわけです。

―そうしますと、今後はあらゆる面で明るいわけですけれども、日本人の将来はどうなんでしようね。

これから伸びる国……★

沢田 まああれだけの土地もあるわけですから、農業移住ということも必要だと思いますが、その他技術関係の方であるとか、あるいは農業以外の商業でも何でもいいし、あるいは芸術の面でもいいのですが、多方面においてそれぞれ志ざす方々が大いに活躍できるところですね。

それからブラジルはいま、首都ブラジリアの建設等で、相当思い切つた投資をやつたので、国際収支の面から見ましても、バク大な赤字をもたらしている……それで政府は産業開発ということに血道をあげているわけです。

政治経済の体系や計画性のなさで、まだ貧弱なものですが、これらが今後軌道に乗つてくれれば、恐るべき力を発揮する国になつてくるのではないか、その場合一人でも多くの日系人が、重要な地位を占めて活躍してくれることが望ましいと思います。

もつたいない話……★

―そのほかブラジルの国情に特に印象を受けたことはありませんか？

沢田 役人の汚職が流行していることですね。一度役人をしたら一生涯遊んで食える、ということが云われていますしね

経済の面では、計画性のなさということを痛感しました。と申しますのは、コーヒーの実で質が悪くて輸出できない二、三年前からのストックを、軍隊が出動して焼いているんですよ。

これはもつたいない話で、工業的に油でも採つたら、相当なプラスになるのではないかと思いますが……そういう計画性が全然ないようです。

国体映画に大喜び……

ブラジル

―話は変りますが、現地の県出身の方々は大変喜ばれたでしよう。

沢田 それはそれは……十二、三の奥地の都市を廻つたのですが、四十年、五十年前に熊本を出てから、一度も熊本に帰らないという人達が多いものですから、非常に喜んでいたゞきましたよ。

また県でつくつた熊本国体の映画も持つていきましたが最近の熊本の景色や、国体が成功裡に終つたことなど、非常に喜んでくれました。

―おみやげは何か……？

沢田 えゝ、ここにもつてきていますように、ヤシの木で作つた人形や、男女一対の土偶……土人形ですね。それに、鉄製の魔除けの鬼……どれも非常に素朴でしよう。

それから、これは三百年位前、ポルトガルがブラジルに入り込んできた頃のものですが、マリア像……。

―これは木彫りですね。

沢田 そうなんです。サンパウロの街を歩いて、こういつた古いもの、素朴なものを見つけて歩くのは楽しいものでした

だが非常に忙しい旅行でもありました。県として公式に奥地まで廻つたのは戦後はじめてだつたものですから、県出身の方々のご慰問ということに終始して本当の開発の第一線であるアマゾンの奥地や、ボリビア国境など、そんなところまでいけなかつたのは残念でした。

しかし、いま鳩野移民課長が現地を廻つており、一カ月程して帰りますので、奥地の話は鳩野課長にしてもらいましよう。

海外に伸びよう……★

―そこで、最後にひとこと。今度のご旅行で最もお感じになつたことは？

沢田 ブラジルにしろ、アメリカにしろある意味では日本と非常に対象的なんですね。例えばアメリカ人といつても、昔からいるのはインデアンぐらいのもので あとはイギリス人、ドイツ人、イタリー人……最近では日系の人々も立派にアメリカの市民権を持つていますしね。

さらにブラジルにいたつては、もう人種の展覧会みたいなものです。

いずれにしても、そういう毛色の違つた民族が、それぞれの長所をいかして、積極的に国造りをやつているわけです。

これは日本にくらべて非常に対照的だと思いました。

日本の民族は非常に立派な民族ですから、その優秀性を、これからは海外に向け大いに発展させていくべきではないか……とこういうことを強く感じました。

―どうもお忙しいところを、いろいろと有難うございました。

〈文責・広報課〉

モニター・ルーム

沿岸漁業不振の原因は何か？

問 近年、築磯、投石等によつて沿岸漁業が成果をあげつつあることは、まことに喜ばしいことです。しかし、それにもかゝわらず、依然として不振の域を脱しきれない。

一例をあげると、湯島沖の太刀魚は、以前多い時には一日に十数屯の水揚げがあつたが、今日では、全く姿を見ない。

県の水産試験場でも、その原因について極力調査研究を進めておられることと思うが、現状をお知らせ下さい。

（天草郡大矢野町のモニターから）

答 沿岸漁業の不振の原因は、いろいろありますが、資源維持については、従来関係ある四県（長崎、佐賀、福岡、熊本）の水産試験場が、「有明海水産研究会」を組織して検討を進めております。

＊

この種の研究は早期に結論を得ることは困難でありますから、水産試験場の本渡市移転を契機として、機構や設備の充実をはかり、更に研究を進めることにしております

＊

県では、県計画でも明らかにしていますようにコンクリートブロック等築磯による沿岸漁族資源の培養をはかりながら、高度の技術を導入して、増殖事業を進展させたいと思います。

＊

なお、沿岸漁業の協業化が進むと共に、県外への集団操業出漁の促進や経営合理化をはかる為、釣延縄漁船の大型化、動力化を促進したいと考えております。

資料

さきの国会で農業基本法が成立し、その関連法の一つとして「農業協同組合合併助成法」が誕生した。この法律の制定によつて、農協合併は、いわば一つの転機を迎え新たな段階に入つたものといえよう。

農業を産業として確立し、企業として成り立ち得るように近代化の諸施策が行われつつあるが、この推進母胎はいうまでもなく農業協同組合であり、その活動に大きな期待がよせられている。

合併助成法の内容

このような情勢の中で、この法律は、自主的に合併機運が盛り上り、合併経営計画をたてた上、その認定を受けた農協が合併した場合に助成することを規定したものである。

そしてこの適用を受けるのは、農協としての機能を十分に発揮できると認められる規模（組合員戸数にして千戸程度）に合併したいわゆる総合農協である。

農協合併助成法とはこんなもの

施設整備費の補助

合併後の組合が、その事業経営に必要な施設の改良などを行つた場合に、費用の三分の二に相当する額か、関係組合数に二十万円を乗じた額か、何れか低い方の額の施設整備費補助金が助成される。

駐在指導費の助成

合併組合に対し農協中央会が指導員を派遣した場合は、月額一万五千円の駐在指導に要する旅費を中央会に対して助成する。

合併奨励金も……

法による助成措置の中には入つていないが、県では組合が合併に協力されたことに対し報いる意味で、一件について十万円、また中央会から解散組合に対しそれぞれ五万円づつ助成されることゝなつている。

租税特別措置法の改正

合併についての助成措置の一つとして、租税特別措置法の一部が改正された。

- 清算所得の非課税
- 被合併組合からの欠損金の引き継ぎ
- 不動産の権利取得の登録税の免除

以上の三点についても認められるようになつた。

合併の現状とこれから

県下の農協合併は昭和二十六年から三十四年度にかけて二十九件六十八組合の合併が行われた。本年度に入つてから八代市郡築の三農協、天草郡有明町の大浦、楠甫の両農協、大矢野町の五農協が合併を議決し、新発足の準備を整えている。

県でも密接な連繋をとつて、合併助成法の適用期限である昭和四十年度をまたず、適正規模の農協が出現するよう促進したい。